

# 海外図書館実習を終えて

政岡 和佳（文学部文学科日本文学専修）

## はじめに

私は香港の明華大学図書館および聖公会曾肇添中学校の学校図書館にて約2週間の図書館実習を行いました。今回、海外実習を検討されている方、そしてもちろん国内での図書館を検討されている方にも自身の経験をお伝えできればと思います。同時に実習に参加するか否か迷っている方にも図書館実習に対して興味をもっといただく一つの機会になればと思います。自身の実習を報告させていただきます。実習期間およびその準備期間は自分にとってお大きな成長になったことを実感しています。

自身の経験が少しでも今後の参考になるのであればうれしい限りです。

## 私が海外での研修を希望した経緯

私は図書館に対して強い憧れがあり、大学に入学したときから図書館実習は必ず参加しようと思っていました。特に私が海外の実習を希望した理由として2点あげることができます。

1点は司書課程の講義で耳にしていた「日本の図書館の発達度合」の現状を海外に直接訪れた形で、直接眺めてみたいという興味です。私は日本の公共図書館での実務経験があり現在も学習の一環として勤務させていただいております。そのため海外の図書館は、日本の図書館とはいかような相違があるのか、自分の目で確かめたいと思いました。インターネットや携帯端末の普及により情報が以前よりも簡単に入手できるようになった今、図書館の専門性が問われています。日本の図書館の価値を再確認したいと思い、実習参加を決意しました。もう1点は自身が実務のうちに司書としての能力を海外では発揮できるのかという挑戦でした。私は日本とは異なる環境のなかでいかに実技として活かすことができるのか、自分の力量をためたいという気持ちを持っていました。自身の好奇心と挑戦の意欲をもって海外実習に臨みました。

## 海外実習にあたり心がけたこと

実習記録の前に海外での図書館実習を希望しようと思っている方に向けて自身の経験から事前に心に留めておくべき点を挙げさせていただきます。

はじめに言語の違いについてです。現地での研修は外国語です。実習時には図書館の専門用語を外国語で理解し使用できる必要があります。この時点で圧倒されてしまう方もいらっしゃるかもしれませんが、現地でお世話になる方々は時間を割いて実習を開いてくださっています。こちらも真摯に学ぶための礼儀ですから少しずつ準備を進めるとよいでしょう。特に二言語以上使用されている国でしたら、挨拶や日本の地名などを両方の言語で言えるようになると説明も容易になるため、ある程度理解しておくと思われれます。また、日本の図書館についての近況も尋ねられますから立教大学図書館はもちろん関心のある館種について調べておきましょう。もちろん自分もはじめからいきなり流暢に会話ができただけではありません。中村先生、ハモンド先生のご協力のもと少しずつ会話ができるようになりました。

もう1点は自分自身について知ることです。「実習を通して何を学びたいのか」を自分に問いかけてみましょう。目標が見つければ準備や実習期間の意欲も変わります。私は先述の通り、

①勤務する日本の公共図書館との比較②自分の実力への挑戦を目標に定めておりました。そのため図書館の収集、管理、提供、保存に焦点をあて研修に臨みました。気持ちのモチようによって実習期間の過ごし方は大きく変わると思います。

## 実習中の様子

実習のなかで最も印象に残った点は香港の図書館、特に大学図書館における先進技術の導入具合でした。香港では日本よりも資料の電子化がすすんでおり、見学をさせていただいた大学図書館では日本の図書館においてあまりなじみのない VR、ドローンなどを用いた実習などを体験させていただきました。香港の司書の方たちは提供できる技術があるならば、それを行う努力を忘れないという姿勢をもち、積極的に導入している点が印象に残りました。利用者もそれらの設備を享受していました。それは図書館側が知識提供の促進を図っているからにほかなりません。また資料の提供方法も図書館にのみとどまるものではありません。図書館からはなれた箇所に「自動圖書站」(Self-service library stations) と名付けられた 24 時間自動で図書の貸出、返却ができる完全自動化された無人図書館も見学させていただきました。香港でも現在 2 館のみの先進的な技術ですが、(2019 年現在) このような施設を導入していることは資料提供の面で図書館からの能動的な働きかけがあるようにうづりました。

そしてもう一点私が感銘を受けた点は図書館のあり方でした。香港では図書館は先述の機器の設置や積極的なプロモーションにより知の情報拠点としての地位を確立しているように感じました。もっとも日本においても図書館の役割は変わりません。ですが、陳列や展示の工夫、学習室や多くの椅子を設置し居心地のよい環境づくり、そして資料の管理方法の発達段階においても、日本はまだ発展できる余地が十分にあることを実感しました。

一方で日本が発達していると思った点もありました。それは資料の保存、修理方法です。研修を行った大学図書館および学校図書館では修理を行う必要がある資料は電子化をしたり、再購入したりするほうが多いそうです。修繕される方法はあるものの、日本のようにたとえ複本があったとしても修理を試みる姿勢は低い印象を受けました。日本の図書館で使用されている資料の日本製保存用具は香港においても利用されていました。また、現地の図書館アシスタントのからも日本の NDL が提供している動画などから修理の方法を収集していました。提供面で何歩も先を進む香港と保存面において充実している日本。その両側面を感じられたことも図書館実習において理解できた点であったと感じています。

加えて自分が経験したことのない業務も体験させていただきました。大学図書館では目録入力作業、学校図書館では分類作業を体験しました。これらの作業は司書課程外では初めての作業でした。その際、デューイ十進分類法を用いて作成し自身にとって未知の分野での成長を実感できるものとなりました。自身の目標としての司書としての目標は基礎を学びなおしたうえで再考する機会になったと思います。そして両国の図書館を比較するという経験は私のなかで非常に充実したものとなりました。そして両国の図書館を比較するという経験は私のなかで非常に充実したものとなりました。

## 実習を終えて、伝えたいこと

私は図書館実習での実習を終了することができました。国内外問わず、図書館の内部で行われている実務はたとえ司書課程を受講している身であっても新鮮に感じると思います。だからこそ自分が学びたいこと、やってみたいことを事前に思い浮かべておくと実習での意欲

につながります。さらに、図書館の業務について事前に想像してみることもよいでしょう。実際の現場との違いに驚き、司書の方々の工夫により目を向けられると思います。

先述のとおり海外実習に参加される方は言語、文化の壁を不安視されるでしょう。もちろんある程度の語学力は大切ですが、必要なことは意欲です。積極的な姿勢を心がけていれば力はついてくるでしょう。

最後になりましたが、実習に参加し現地の方々のご支援によって私は図書館実習を終了することができました。また、事前指導として中村先生、ハモンド先生、実習担当の佐藤さんにはご助力を賜りました。本当に感謝の言葉では書き表すことができません。自身の実習経験は周りの方々の大きな支えのおかげで得られるものであったと感じております。図書館実習は一度きりの機会です。ぜひ全力をそそいでみてください。きっと自分にとって有意義なものになると実感できるはずです。

これから実習に参加予定の方のご成功を心からお祈り申し上げます。